

# [単体情報] 中間財務諸表等

## 中間貸借対照表

(単位：百万円)

区分	前中間会計期間末 (平成27年9月30日)	当中間会計期間末 (平成28年9月30日)
	金額	金額
<b>(資産の部)</b>		
現金預け金 ※7.	176,341	218,278
コールローン	45,311	2,952
商品有価証券	28	32
有価証券 ※1.※7.※9.	540,520	601,252
貸出金 ※2.※3.※4.※5.※6.※8.	1,339,226	1,353,403
外国為替 ※6.	580	648
その他資産	4,068	3,870
その他の資産 ※7.	4,068	3,870
有形固定資産	24,762	24,992
無形固定資産	1,300	1,711
繰延税金資産	2,977	-
支払承諾見返	3,581	3,267
貸倒引当金	△7,671	△8,520
<b>資産の部合計</b>	<b>2,131,029</b>	<b>2,201,889</b>
<b>(負債の部)</b>		
預金 ※7.	1,864,970	1,888,662
譲渡性預金	700	700
借入金 ※7.	103,852	141,455
外国為替	21	18
その他負債	6,349	4,959
未払法人税等	638	830
リース債務	524	837
資産除去債務	313	317
その他の負債 ※7.	4,872	2,973
賞与引当金	414	415
退職給付引当金	10,796	10,636
役員退職慰労引当金	-	0
睡眠預金払戻損失引当金	419	394
偶発損失引当金	652	648
繰延税金負債	-	365
再評価に係る繰延税金負債	2,673	2,493
支払承諾	3,581	3,267
<b>負債の部合計</b>	<b>1,994,430</b>	<b>2,054,017</b>

## 中間貸借対照表

(単位：百万円)

区分	前中間会計期間末 (平成27年9月30日)	当中間会計期間末 (平成28年9月30日)
	金額	金額
<b>(純資産の部)</b>		
資本金	38,653	38,653
資本剰余金	31,170	31,160
資本準備金	17,500	17,500
その他資本剰余金	13,670	13,660
利益剰余金	47,394	54,540
利益準備金	1,390	1,637
その他利益剰余金	46,004	52,903
繰越利益剰余金	46,004	52,903
自己株式	△372	△317
株主資本合計	116,845	124,038
その他有価証券評価差額金	16,511	20,542
土地再評価差額金	3,052	3,093
評価・換算差額等合計	19,564	23,635
新株予約権	189	198
<b>純資産の部合計</b>	<b>136,599</b>	<b>147,872</b>
<b>負債及び純資産の部合計</b>	<b>2,131,029</b>	<b>2,201,889</b>

## 中間損益計算書

(単位：百万円)

区分	前中間会計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当中間会計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
	金額	金額
経常収益	18,488	20,057
資金運用収益	15,073	14,711
(うち貸出金利息)	(11,165)	(10,858)
(うち有価証券利息配当金)	(3,792)	(3,779)
役員取引等収益	2,914	2,955
その他業務収益	76	1,621
その他経常収益 ※1.	424	769
経常費用	13,898	15,223
資金調達費用	411	346
(うち預金利息)	(351)	(288)
役員取引等費用	2,051	2,107
その他業務費用	-	2
営業経費 ※2.	10,623	10,927
その他経常費用 ※3.	812	1,839
経常利益	4,589	4,834
特別利益	-	5
特別損失	4	3
税引前中間純利益	4,585	4,836
法人税、住民税及び事業税	564	672
法人税等調整額	140	98
法人税等合計	704	771
中間純利益	3,880	4,065

## 中間株主資本等変動計算書

前中間会計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)

(単位：百万円)

	株主資本							自己株式	株主資本合計
	資本金	資本剰余金	資本剰余金	資本剰余金	利益剰余金	利益剰余金	利益剰余金		
		資本準備金	その他資本剰余金	合計	利益準備金	その他利益剰余金	合計		
当期首残高	38,653	17,500	13,674	31,174	1,140	43,623	44,763	△392	114,199
会計方針の変更による累積的影響額									
会計方針の変更を反映した当期首残高	38,653	17,500	13,674	31,174	1,140	43,623	44,763	△392	114,199
当中間期変動額									
剰余金の配当						△1,250	△1,250		△1,250
利益準備金の積立					250	△250	-		-
中間純利益						3,880	3,880		3,880
自己株式の処分			△4	△4				21	16
自己株式の取得								△1	△1
株主資本以外の項目の当中間期変動額(純額)									
当中間期変動額合計	-	-	△4	△4	250	2,380	2,630	19	2,646
当中間期末残高	38,653	17,500	13,670	31,170	1,390	46,004	47,394	△372	116,845

	評価・換算差額等			新株予約権	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	土地再評価 差額金	評価・換算 差額等合計		
当期首残高	18,828	3,052	21,880	177	136,257
会計方針の変更による累積的影響額					-
会計方針の変更を反映した当期首残高	18,828	3,052	21,880	177	136,257
当中間期変動額					
剰余金の配当					△1,250
利益準備金の積立					-
中間純利益					3,880
自己株式の処分					16
自己株式の取得					△1
株主資本以外の項目の当中間期変動額(純額)	△2,316	-	△2,316	11	△2,304
当中間期変動額合計	△2,316	-	△2,316	11	341
当中間期末残高	16,511	3,052	19,564	189	136,599

当中間会計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)

(単位：百万円)

	株主資本							自己株式	株主資本合計
	資本金	資本準備金	資本剰余金 その他資本 剰余金	資本剰余金 合計	利益準備金	利益剰余金 その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金 合計		
当期首残高	38,653	17,500	13,670	31,170	1,390	50,336	51,726	△373	121,177
会計方針の変更による累積的影響額									
会計方針の変更を反映した当期首残高	38,653	17,500	13,670	31,170	1,390	50,336	51,726	△373	121,177
当中間期変動額									
剰余金の配当						△1,237	△1,237		△1,237
利益準備金の積立					247	△247	—		—
中間純利益						4,065	4,065		4,065
自己株式の処分			△9	△9				57	48
自己株式の取得								△1	△1
土地再評価差額金の取崩						△13	△13		△13
株主資本以外の項目の当中間期変動額(純額)									
当中間期変動額合計	—	—	△9	△9	247	2,566	2,813	56	2,861
当中間期末残高	38,653	17,500	13,660	31,160	1,637	52,903	54,540	△317	124,038

	評価・換算差額等			新株予約権	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	土地再評価 差額金	評価・換算 差額等合計		
当期首残高	21,575	3,079	24,655	217	146,050
会計方針の変更による累積的影響額					—
会計方針の変更を反映した当期首残高	21,575	3,079	24,655	217	146,050
当中間期変動額					
剰余金の配当					△1,237
利益準備金の積立					—
中間純利益					4,065
自己株式の処分					48
自己株式の取得					△1
土地再評価差額金の取崩					△13
株主資本以外の項目の当中間期変動額(純額)	△1,033	13	△1,019	△18	△1,038
当中間期変動額合計	△1,033	13	△1,019	△18	1,822
当中間期末残高	20,542	3,093	23,635	198	147,872

■注記事項

■重要な会計方針

- 商品有価証券の評価基準及び評価方法  
商品有価証券の評価は、時価法(売却原価は移動平均法により算定)により行っております。
- 有価証券の評価基準及び評価方法  
(1) 有価証券の評価は、満期保有目的の債券については移動平均法による償却原価法(定額法)、子会社株式及び関連会社株式については移動平均法による原価法、その他有価証券については原則として中間決算日の市場価格等に基づく時価法(売却原価は移動平均法により算定)、ただし時価を把握することが極めて困難と認められるものについては移動平均法による原価法により行っております。  
なお、その他有価証券の評価差額については、全部純資産直入法により処理しております。  
(2) 有価証券運用を主目的とする単独運用の金銭の信託において信託財産として運用されている有価証券の評価は、時価法により行っております。
- デリバティブ取引の評価基準及び評価方法  
デリバティブ取引の評価は、時価法により行っております。
- 固定資産の減価償却の方法  
(1) 有形固定資産(リース資産を除く)  
有形固定資産は、定率法(ただし、平成10年4月1日以後に取得した建物(建物附属設備を除く。))並びに平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物については定額法を採用し、年間減価償却費見積額を期間により按分し計上しております。  
また、主な耐用年数は次のとおりであります。  
建物 15年～50年  
その他 3年～20年  
(2) 無形固定資産(リース資産を除く)  
無形固定資産は、定額法により償却しております。なお、自社利用のソフトウェアについては、行内における利用可能期間(5年)に基づいて償却しております。  
(3) リース資産  
所有権移転ファイナンス・リース取引に係る「有形固定資産」及び「無形固定資産」中のリース資産は、それぞれ4.(1)及び4.(2)の方法により償却しております。  
所有権移転外ファイナンス・リース取引に係る「有形固定資産」及び「無形固定資産」中のリース資産は、リース期間を耐用年数とした定額法により償却しております。なお、残存価額については、リース契約上に残価保証の取決めがあるものは当該残価保証額とし、それ以外のものは零としております。

5. 引当金の計上基準

- 貸倒引当金  
貸倒引当金は、予め定めている償却・引当基準に則り、次のとおり計上しております。  
破産、特別清算等法的に経営破綻の事実が発生している債務者(以下「破綻先」という。)に係る債権及びそれと同等の状況にある債務者(以下「実質破綻先」という。)に係る債権については、以下のなお書きに記載されている直接減額後の帳簿価額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額を計上しております。また、現在は経営破綻の状況にないが、今後経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる債務者に係る債権については、債権額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額のうち、債務者の支払能力を総合的に判断し必要と認める額を計上しております。  
破綻懸念先で与信額が一定額以上の大口債務者のうち、債権の元本の回収及び利息の受取りに係るキャッシュ・フローを合理的に見積もることができる債権については、当該キャッシュ・フローを当初の約定利率で割り引いた金額と債権の帳簿価額との差額を貸倒引当金とする方法(キャッシュ・フロー見積法)により計上しております。  
上記以外の債権については、過去の一定期間における貸倒実績から算出した貸倒実績率等に基づき計上しております。  
すべての債権は、資産の自己査定基準に基づき、営業関連部署が資産査定を実施し、当該部署から独立した資産監査部署が査定結果を監査しております。  
なお、破綻先及び実質破綻先に対する担保・保証付債権等については、債権額から担保の評価額及び保証による回収が可能と認められる額を控除した残額を取立不能見込額として債権額から直接減額しており、その金額は4,362百万円であります。
- 賞与引当金  
賞与引当金は、従業員への賞与の支払いに備えるため、従業員に対する賞与の支給見込額のうち、当中間会計期間に帰属する額を計上しております。
- 退職給付引当金  
退職給付引当金は、従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当中間会計期間末において発生していると認められる額を計上しております。また、退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当中間会計期間末までの期間に帰属させる方法については給付算定式基準によりあります。なお、過去勤務費用及び数理計算上の差異の損益処理方法は次のとおりであります。

過去勤務費用：その発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数（5年）による定額法により損益処理  
 数理計算上の差異：各事業年度の発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数（10年）による定額法により按分した額を、それぞれ発生時の翌事業年度から損益処理

(4) 睡眠預金払戻損失引当金  
 睡眠預金払戻損失引当金は、負債計上を中止した預金について、預金者からの払戻請求に備えるため、将来の払戻請求に応じて発生する損失を見積り必要と認める額を計上しております。

(5) 偶発損失引当金  
 偶発損失引当金は、信用保証協会への負担金の支払いに備えるため、将来の負担金支払見込額を計上しております。

6. 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準  
 外貨建資産及び負債は、中間決算日の為替相場による円換算額を付しております。

7. リース取引の処理方法  
 所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年4月1日以前に開始する事業年度に属するものについては、通常の賃貸借取引に準じた会計処理によっております。

8. ヘッジ会計の方法  
 当行では、貸出金等から生じる金利リスクをデリバティブ取引を用いてリスク管理しております。これについてのヘッジ会計の方法は、「金融商品会計に関する実務指針」（日本公認会計士協会会計制度委員会報告第14号 平成28年3月25日）に基づく繰延ヘッジによる会計処理であります。  
 また、ヘッジ対象の金利リスクが減殺されているかどうかを検証することにより、ヘッジの有効性を評価しております。

9. その他中間財務諸表作成のための基本となる重要な事項

(1) 退職給付に係る会計処理  
 退職給付に係る未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用の未処理額の会計処理の方法は、中間連結財務諸表におけるこれらの会計処理の方法と異なっております。

(2) 消費税等の会計処理  
 消費税及び地方消費税（以下「消費税等」という。）の会計処理は、税抜方式によっております。  
 ただし、有形固定資産に係る控除対象外消費税等は当中間会計期間の費用に計上しております。

(会計方針の変更)  
 「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」の適用  
 法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」（実務対応報告第32号 平成28年6月17日）を当中間会計期間に適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。  
 なお、これによる当中間会計期間の経常利益及び税引前中間純利益に与える影響は軽微であります。

(追加情報)  
 「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日）を当中間会計期間から適用しております。

(中間貸借対照表関係)

※1. 関係会社の株式又は出資金の総額

株式	1,013百万円
出資金	0百万円

※2. 貸出金のうち破綻先債権額及び延滞債権額は次のとおりであります。

破綻先債権額	1,080百万円
延滞債権額	49,849百万円

なお、破綻先債権とは、元本又は利息の支払の遅延が相当期間継続していることその他の事由により元本又は利息の取立て又は弁済の見込みがないものとして未収利息を計上しなかった貸出金（貸倒償却を行った部分を除く。以下「未収利息不計上貸出金」という。）のうち、法人税法施行令（昭和40年政令第97号）第96条第1項第3号イからホまでに掲げる事由又は同項第4号に規定する事由が生じている貸出金であります。  
 また、延滞債権とは、未収利息不計上貸出金であって、破綻先債権及び債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として利息の支払を猶予した貸出金以外の貸出金であります。

※3. 貸出金のうち3カ月以上延滞債権額は次のとおりであります。

3カ月以上延滞債権額	－百万円
------------	------

なお、3カ月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払が、約定支払日の翌日から3カ月以上遅延している貸出金で破綻先債権及び延滞債権に該当しないものであります。

※4. 貸出金のうち貸出条件緩和債権額は次のとおりであります。

貸出条件緩和債権額	3,131百万円
-----------	----------

なお、貸出条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で破綻先債権、延滞債権及び3カ月以上延滞債権に該当しないものであります。

※5. 破綻先債権額、延滞債権額、3カ月以上延滞債権額及び貸出条件緩和債権額の合計額は次のとおりであります。

合計額	54,061百万円
-----	-----------

なお、上記2.から5.に掲げた債権額は、貸倒引当金控除前の金額であります。

※6. 手形割引は、「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」（日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第24号 平成14年2月13日）に基づき金融取引として処理しております。  
 これにより受け入れた商業手形、荷付為替手形及び買入外国為替等は、売却又は（再）担保という方法で自由に処分できる権利を有しておりますが、その額面金額は次のとおりであります。

8,060百万円

※7. 担保に供している資産は次のとおりであります。

担保に供している資産	
現金預け金	16百万円
有価証券	149,371百万円
その他の資産	23百万円
計	149,411百万円
担保資産に対応する債務	
預金	9,440百万円
借入金	141,455百万円
その他の負債	81百万円

上記のほか、為替決済及び短期金融取引等の取引の担保として、次のものを差し入れております。

有価証券	84,707百万円
------	-----------

また、その他の資産には、保証金が含まれておりますが、その金額は次のとおりであります。

保証金	547百万円
-----	--------

※8. 当座貸越契約及び貸付金に係るコミットメントライン契約は、顧客からの融資実行の申し出を受けた場合に、契約上規定された条件について違反がない限り、一定の限度額まで資金を貸付けることを約する契約であります。これらの契約に係る融資未実行残高は次のとおりであります。

融資未実行残高	167,880百万円
うち契約締結が1年以内のもの	145,549百万円

なお、これらの契約の多くは、融資実行されずに終了するものであるため、融資未実行残高そのものが必ずしも当行の将来のキャッシュ・フローに影響を与えるものではありません。これらの契約の多くには、金融情勢の変化、債権の保全及びその他相当の事由があるときは、当行が実行申し込みを受けた融資の拒絶又は契約極度額の減額をすることができる旨の条項が付けられております。また、契約時において必要に応じて不動産・有価証券等の担保を徴求するほか、契約後も定期的に予め定められている行内手続に基づき顧客の業況等を把握し、必要に応じて契約の見直し、与信保全上の措置等を講じております。

※9. 「有価証券」中の社債のうち、有価証券の私募（金融商品取引法第2条第3項）による社債に対する当行の保証債務の額 269百万円

(中間損益計算書関係)

※1. その他経常収益には、次のものを含んでおります。

償却債権取立益	565百万円
---------	--------

※2. 減価償却実施額は次のとおりであります。

有形固定資産	517百万円
無形固定資産	153百万円

※3. その他経常費用には、次のものを含んでおります。

貸倒引当金繰入額	1,414百万円
貸出金償却	254百万円

(有価証券関係)  
 子会社株式及び関連会社株式（当中間会計期間の中間貸借対照表計上額は子会社株式1,013百万円、関連会社株式－百万円）は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

(重要な後発事象)  
 該当事項はありません。

■当行は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、前中間会計期間（自平成27年4月1日 至平成27年9月30日）及び当中間会計期間（自平成28年4月1日 至平成28年9月30日）の中間財務諸表について、有責任監査法人トーマツの中間監査を受けております。

# 営業の状況

## 預金

### 預金科目別残高

[1] 平均残高

(単位：百万円)

種類	平成27年4月1日から平成27年9月30日			平成28年4月1日から平成28年9月30日		
	国内業務部門	国際業務部門	合計	国内業務部門	国際業務部門	合計
預金						
流動性預金	780,209	—	780,209	790,603	—	790,603
うち有利息預金	638,498	—	638,498	653,159	—	653,159
定期性預金	1,053,396	—	1,053,396	1,069,412	—	1,069,412
うち固定自由金利定期預金	1,030,384	—	1,030,384	1,046,858	—	1,046,858
うち変動自由金利定期預金	194	—	194	179	—	179
その他	8,567	6,058	14,626	8,072	8,627	16,700
合計	1,842,173	6,058	1,848,232	1,868,088	8,627	1,876,716
譲渡性預金	700	—	700	700	—	700
総合計	1,842,873	6,058	1,848,932	1,868,788	8,627	1,877,416

- (注) 1. 流動性預金 = 当座預金 + 普通預金 + 貯蓄預金 + 通知預金  
 2. 定期性預金 = 定期預金 + 定期積金  
 固定自由金利定期預金：預入時に満期日までの利率が確定する自由金利定期預金  
 変動自由金利定期預金：預入期間中の市場金利の変化に応じて金利が変動する自由金利定期預金  
 3. 国際業務部門の国内店外貨建取引の平均残高は、日次カレント方式（毎日のTT仲値を適用する方式）により算出しております。

[2] 定期預金の残存期間別残高

(単位：百万円)

種類	期間別	期間					合計	
		3か月未満	3か月以上 6か月未満	6か月以上 1年未満	1年以上 2年未満	2年以上 3年未満		3年以上
定期預金	平成27年9月30日	266,383	156,978	331,849	132,616	132,188	14,674	1,034,482
	平成28年9月30日	269,999	169,633	324,078	129,910	140,053	14,164	1,047,840
うち固定自由 金利定期預金	平成27年9月30日	266,366	156,957	331,770	132,576	132,136	14,674	1,034,482
	平成28年9月30日	269,973	169,622	324,029	129,860	140,013	14,164	1,047,664
うち変動自由 金利定期預金	平成27年9月30日	13	21	78	39	52	—	204
	平成28年9月30日	22	10	49	50	40	—	173
その他の 定期預金	平成27年9月30日	3	—	—	—	—	—	3
	平成28年9月30日	3	—	—	—	—	—	3

(注) 本表の預金残高には、積立定期預金を含んでおりません。

### 預金者別預金残高

(単位：百万円)

種類	平成27年9月30日		平成28年9月30日	
	金額	構成比	金額	構成比
個人	1,481,908	79.46%	1,499,184	79.38%
法人	347,714	18.64	353,421	18.71
その他	35,348	1.90	36,058	1.91
合計	1,864,970	100.00	1,888,663	100.00

## 貸出

### 貸出金残高

[1] 平均残高

(単位：百万円)

種類	平成27年4月1日から平成27年9月30日			平成28年4月1日から平成28年9月30日		
	国内業務部門	国際業務部門	合計	国内業務部門	国際業務部門	合計
手形貸付	75,799	1,827	77,626	69,360	1,578	70,939
証書貸付	1,129,852	1,193	1,131,045	1,161,579	1,900	1,163,479
当座貸越	101,736	—	101,736	102,959	—	102,959
割引手形	8,677	—	8,677	8,152	—	8,152
合計	1,316,066	3,020	1,319,087	1,342,052	3,478	1,345,531

(注) 国際業務部門の国内店外貨建取引の平均残高は、日次カレント方式により算出しております。

[2] 貸出金の残存期間別残高

(単位：百万円)

種類	期間別	期間					合計	
		1年以下	1年超 3年以下	3年超 5年以下	5年超 7年以下	7年超		期間の定め のないもの
貸出金	平成27年9月30日	134,692	114,206	146,874	71,582	761,309	110,561	1,339,226
	平成28年9月30日	119,152	113,806	155,286	69,545	787,971	107,640	1,353,403
うち変動金利	平成27年9月30日	22,927	43,560	78,909	36,101	360,020	33,166	574,684
	平成28年9月30日	25,776	43,812	81,933	35,020	382,158	31,970	600,672
うち固定金利	平成27年9月30日	111,764	70,645	67,965	35,480	401,289	77,395	764,541
	平成28年9月30日	93,376	69,993	73,352	34,524	405,813	75,670	752,731

### 貸出金使途別残高

(単位：百万円)

種類	平成27年9月30日		平成28年9月30日	
	貸出残高	構成比	貸出残高	構成比
設備資金	669,104	50.0%	682,007	50.4%
運転資金	670,122	50.0	671,396	49.6
合計	1,339,226	100.0	1,353,403	100.0

### 消費者ローン残高

(単位：百万円)

種類	平成27年9月30日	平成28年9月30日
住宅ローン	328,074	320,138
その他ローン	20,512	22,591
合計	348,587	342,729

### 貸出金担保別内訳

(単位：百万円)

種類	平成27年9月30日	平成28年9月30日
有価証券	2,451	1,901
債権	26,378	25,526
商品	584	546
不動産	245,371	252,696
その他	3,893	8,128
小計	278,678	288,799
保証	467,782	459,584
信用	592,765	605,019
合計	1,339,226	1,353,403
(うち劣後特約貸出金)	(—)	(—)

### 債務の保証（支払承諾）

[1] 支払承諾の残高内訳

(単位：口、百万円)

区分	手形引受		信用状		保証		合計	
	口数	金額	口数	金額	口数	金額	口数	金額
平成27年9月30日	—	—	8	27	744	3,554	752	3,581
平成28年9月30日	—	—	4	22	677	3,244	681	3,267

[2] 支払承諾見返の担保別内訳

(単位：百万円)

種類	平成27年9月30日	平成28年9月30日
有価証券	—	—
債権	61	36
商品	—	—
不動産	844	972
その他	—	—
小計	905	1,009
保証	1,408	1,187
信用	1,267	1,070
合計	3,581	3,267

### 業種別貸出状況

(単位：百万円)

業種別	平成27年9月30日		平成28年9月30日	
	貸出金残高	構成比	貸出金残高	構成比
国内 (除く特別国際金融取引勘定分)	1,339,226	100.00%	1,353,403	100.00%
製造業	164,504	12.28	161,652	11.94
農業、林業	1,344	0.10	1,587	0.12
漁業	103	0.00	103	0.01
鉱業、採石業、砂利採取業	131	0.01	157	0.01
建設業	71,938	5.37	77,914	5.76
電気・ガス・熱供給・水道業	5,259	0.39	8,025	0.59
情報通信業	19,313	1.44	17,618	1.30
運輸業、郵便業	38,586	2.88	40,625	3.00
卸売業、小売業	97,387	7.27	91,805	6.78
金融業、保険業	62,834	4.69	54,662	4.04
不動産業、物品賃貸業	191,621	14.30	204,629	15.12
各種サービス業	149,805	11.18	156,305	11.54
地方公共団体	173,918	12.98	185,157	13.68
その他	362,476	27.06	353,157	26.09
海外及び 特別国際金融取引勘定分	—	—	—	—
政府等	—	—	—	—
金融機関	—	—	—	—
その他	—	—	—	—
合計	1,339,226		1,353,403	

## 証券

### 保有有価証券残高

[1] 平均残高 (単位: 百万円)

種類	平成27年4月1日から平成27年9月30日				平成28年4月1日から平成28年9月30日			
	国内業務部門	国際業務部門	合計	構成比	国内業務部門	国際業務部門	合計	構成比
国債	163,973	-	163,973	31.16%	155,778	-	155,778	26.91%
地方債	91,706	-	91,706	17.43	129,220	-	129,220	22.32
社債	110,733	-	110,733	21.04	130,414	-	130,414	22.53
株式	10,872	-	10,872	2.06	10,150	-	10,150	1.75
その他の証券	42,602	106,373	148,975	28.31	51,825	101,557	153,382	26.49
うち外国債券	-	98,873	98,873	18.79	-	92,224	92,224	15.93
うち外国株式	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	419,889	106,373	526,262	100.00	477,390	101,557	578,947	100.00

(注) 国際業務部門の国内店外貨建取引の平均残高は、日次カレント方式により算出しております。

[2] 残存期間別残高 (単位: 百万円)

種類	期間別	期間						期間の定めのないもの	合計
		1年以下	1年超3年以下	3年超5年以下	5年超7年以下	7年超10年以下	10年超		
国債	平成27年9月30日	19,388	51,173	50,786	15,480	16,825	15,667	-	169,322
	平成28年9月30日	21,226	40,937	43,123	11,700	17,100	24,279	-	158,368
地方債	平成27年9月30日	7,199	15,560	19,560	9,598	10,542	37,255	-	99,717
	平成28年9月30日	7,164	21,352	19,342	10,680	16,987	57,855	-	133,381
社債	平成27年9月30日	9,456	15,802	7,454	1,799	1,482	85,173	-	121,168
	平成28年9月30日	10,385	10,327	12,161	5,183	3,037	96,951	-	138,046
株式	平成27年9月30日	-	-	-	-	-	-	18,398	18,398
	平成28年9月30日	-	-	-	-	-	-	15,253	15,253
その他の証券	平成27年9月30日	23,178	36,141	18,959	12,550	15,115	9,999	15,970	131,913
	平成28年9月30日	22,116	32,629	25,480	23,312	17,922	15,881	18,859	156,202
うち外国債券	平成27年9月30日	23,178	33,884	14,829	975	6,145	3,609	973	83,596
	平成28年9月30日	22,116	28,686	20,096	10,209	3,948	4,004	-	89,061
うち外国株式	平成27年9月30日	-	-	-	-	-	-	-	-
	平成28年9月30日	-	-	-	-	-	-	-	-

### 商品有価証券売買業務

商品有価証券平均残高 (単位: 百万円)

期別	商品国債	商品地方債	商品政府保証債	貸付商品債券	合計
平成27年9月30日	1	24	-	-	25
平成28年9月30日	0	28	-	-	29

### 公共債の引受

(単位: 百万円)

期別	国債	地方債・政府保証債	合計
平成27年9月30日	-	3,080	3,080
平成28年9月30日	-	2,670	2,670

(注) 額面金額で記載しております。

### 公共債及び証券投資信託の窓口販売実績

(単位: 百万円)

期別	国債	地方債・政府保証債	合計	証券投資信託
平成27年9月30日	322	140	462	25,285
平成28年9月30日	118	-	118	29,285

(注) 証券投資信託の窓口販売は、平成10年12月1日から実施しております。

## 国際業務

### 特定海外債権残高

該当ありません。

### 中小企業等に対する貸出金

(単位: 件、百万円)

期別	総貸出金残高 (A)		中小企業等貸出金残高 (B)		(B) / (A)	
	貸出先数	金額	貸出先数	金額	貸出先数	金額
平成27年9月30日	62,919	1,339,226	62,783	1,082,713	99.78%	80.84%
平成28年9月30日	62,410	1,353,403	62,272	1,086,139	99.77%	80.25%

(注) 中小企業等とは、資本金3億円（ただし、卸売業は1億円、小売業、飲食業、物品賃貸業等は5千万円）以下の会社又は常用する従業員が300人（ただし、卸売業、物品賃貸業等は100人、小売業、飲食業は50人）以下の企業等であります。

### 貸出金償却額

(単位: 百万円)

平成27年9月30日	平成28年9月30日
460	254

(注) 貸出金償却額は、貸出金償却額からすでに繰入済みの個別貸倒引当金の当該償却に係わる取崩額を控除した額を計上しております。

### リスク管理債権額

(単位: 百万円)

区分	平成27年9月30日	平成28年9月30日
破綻先債権額	988	1,080
延滞債権額	48,237	49,849
3ヵ月以上延滞債権額	-	-
貸出条件緩和債権額	2,953	3,131
合計	52,180	54,061

(参考) リスク管理債権は、銀行法施行規則第19条の2に基づき区分しております。用語の解説

- 破綻先債権とは、元本又は利息の支払の遅延が相当期間継続していることその他の事由により元本又は利息の取立て又は弁済の見込みがないものとして未取利息を計上しなかった貸出金（貸倒償却を行った部分を除く。以下「未取利息不計上貸出金」という。）のうち、法人税法施行令（昭和40年政令第97号）第96条第1項第3号のイからホまでに掲げる事由又は同項第4号に規定する事由が生じている貸出金であります。
- 延滞債権とは、未取利息不計上貸出金であって、破綻先債権及び債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として利息の支払を猶予した貸出金以外の貸出金であります。
- 3ヵ月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払が、約定支払日の翌日から3ヵ月以上延滞している貸出金で破綻先債権及び延滞債権に該当しないものであります。
- 貸出条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で破綻先債権、延滞債権及び3ヵ月以上延滞債権に該当しないものであります。

### 資産の査定額

(単位: 百万円)

債権の区分	平成27年9月30日	平成28年9月30日
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	5,191	5,877
危険債権	44,355	45,344
要管理債権	2,953	3,131
小計	52,500	54,353
正常債権	1,291,669	1,303,848
合計	1,344,169	1,358,202

(参考) 資産の査定は、「金融機能の再生のための緊急措置に関する法律」（平成10年法律第132号）第6条に基づき、当行の中間貸借対照表の社債（当該社債を有する金融機関がその元本の償還及び利息の支払の全部又は一部について保証しているものであって、当該社債の発行が金融商品取引法（昭和23年法律第25号）第2条第3項に規定する有価証券の私募によるものに限る。）、貸出金、外国為替、その他資産中の未取利息及び仮払金、支払承諾見返の各勘定に計上されるもの並びに中間貸借対照表に注記することとされている有価証券の貸付けを行っている場合のその有価証券（使用貸借又は貸借契約によるものに限る。）について債務者の財政状態及び経営成績等を基礎として区分するものであります。

用語の解説

- 破産更生債権及びこれらに準ずる債権とは、破産手続開始、更生手続開始、再生手続開始の申立て等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権をいう。
- 危険債権とは、債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取りができない可能性の高い債権をいう。
- 要管理債権とは、3ヵ月以上の延滞債権及び貸出条件緩和債権をいう。
- 正常債権とは、債務者の財政状態及び経営成績に特に問題がないものとして、上記1から3に掲げる債権以外のものに区分される債権をいう。

### 引当金明細表

(単位: 百万円)

区分	平成28年3月31日	当中間期増加額	当中間期減少額		平成28年9月30日
	残高		目的使用	その他	
貸倒引当金	7,208	8,520	102	7,105	8,520
一般貸倒引当金	2,831	3,171	-	2,831	3,171
個別貸倒引当金	4,377	5,349	102	4,274	5,349
賞与引当金	409	415	409	-	415
睡眠預金払戻損失引当金	447	-	33	18	394
偶発損失引当金	682	114	147	-	648
合計	8,748	9,049	694	7,124	9,979

(注) 当中間期減少額（その他）欄に記載の減少額はそれぞれ次の理由によるものであります。  
 一般貸倒引当金……洗替による取崩額  
 個別貸倒引当金……洗替による取崩額  
 睡眠預金払戻損失引当金……洗替による取崩額

# 損益の状況

## 国内・国際業務部門別粗利益

(単位：百万円)

種 類	平成27年9月期			平成28年9月期		
	国内業務部門	国際業務部門	合 計	国内業務部門	国際業務部門	合 計
資金運用収益	14,118	983	15,073	14,051	686	14,711
資金調達費用	408	31	411	341	31	346
資金運用収支	13,709	951	14,661	13,709	655	14,365
役員取引等収益	2,890	23	2,914	2,933	21	2,955
役員取引等費用	2,040	11	2,051	2,096	11	2,107
役員取引等収支	850	12	862	837	10	847
その他業務収益	30	46	76	1,565	55	1,621
その他業務費用	-	-	-	2	-	2
その他業務収支	30	46	76	1,563	55	1,619
業務粗利益	14,590	1,010	15,601	16,110	721	16,832
業務粗利益率	1.45%	1.81%	1.55%	1.59%	1.33%	1.66%

- (注) 1. 国内業務部門は国内店の円建取引、国際業務部門は国内店の外貨建取引であります。ただし、円建対非居住者取引分は国際業務部門に含めております。
2. 資金運用収益及び資金調達費用の合計欄の上段の計数（ ）内は、国内業務部門と国際業務部門の間の資金貸借の利息であります。
3. 業務粗利益率 =  $\frac{\text{業務粗利益}}{\text{資金運用勘定平均残高}} \times \frac{365}{183} \times 100$

## 業務純益等

(単位：百万円)

	平成27年9月期	平成28年9月期
業務純益	5,055	5,648
コア業務純益	4,926	4,843

- (注) 1. 業務純益とは、銀行が本業でどれだけ収益をあげたかを示す利益指標で、「資金利益」「役員取引等利益」「その他業務利益」を合算したものの(業務粗利益)から経費等を差し引いたものが業務純益となります。
2. コア業務純益とは、業務純益から「一般貸倒引当金繰入額」と「国債等の有価証券売買による損益」を除いて算出した実質的な業務純益です。

## 資金運用・調達勘定平均残高、利息、利回り

[1] 国内業務部門 (単位：百万円)

種 類	平成27年9月期			平成28年9月期		
	平均残高	利 息	利回り	平均残高	利 息	利回り
資金運用勘定	(105,226)	(28)		(99,479)	(26)	
うち貸出金	1,993,757	14,118	1.41%	2,013,220	14,051	1.39%
うち商品有価証券	1,316,066	11,149	1.68	1,342,052	10,835	1.61
うち有価証券	25	0	0.30	29	0	0.24
うちコールローン	419,889	2,826	1.34	477,390	3,128	1.30
うち買入手形	68,770	39	0.11	20,278	1	0.00
うち債券貸借取引支払保証金	-	-	-	-	-	-
うち預け金	83,779	45	0.10	73,990	37	0.09
資金調達勘定	1,932,887	408	0.04	2,003,727	341	0.03
うち預金	1,842,173	348	0.03	1,868,088	283	0.03
うち譲渡性預金	700	0	0.25	700	0	0.14
うちコールマネー	-	-	-	874	△0	△0.01
うち売渡手形	-	-	-	-	-	-
うち債券貸借取引受入担保金	-	-	-	-	-	-
うちコマースペーパー	-	-	-	-	-	-
うち借入金	89,436	44	0.10	133,140	36	0.05

- (注) 1. 資金運用勘定は無利息預け金の平均残高(平成27年9月期6,455百万円、平成28年9月期66,002百万円)を控除して表示しております。
2. ( )内は国内業務部門と国際業務部門の間の資金貸借の平均残高及び利息(内書き)であります。

[2] 国際業務部門 (単位：百万円)

種 類	平成27年9月期			平成28年9月期		
	平均残高	利 息	利回り	平均残高	利 息	利回り
資金運用勘定	111,234	983	1.76%	108,108	686	1.26%
うち貸出金	3,020	15	1.00	3,478	22	1.31
うち商品有価証券	-	-	-	-	-	-
うち有価証券	106,373	965	1.81	101,557	650	1.27
うちコールローン	1,113	0	0.15	2,454	12	0.97
うち買入手形	-	-	-	-	-	-
うち債券貸借取引支払保証金	-	-	-	-	-	-
うち預け金	0	0	0.01	0	-	-
資金調達勘定	(105,226)	(28)		(99,479)	(26)	
うち預金	111,314	31	0.05	108,137	31	0.05
うち譲渡性預金	6,058	3	0.10	8,627	5	0.11
うちコールマネー	-	-	-	-	-	-
うち売渡手形	-	-	-	-	-	-
うち債券貸借取引受入担保金	-	-	-	-	-	-
うちコマースペーパー	-	-	-	-	-	-
うち借入金	-	-	-	-	-	-

- (注) 1. 資金運用勘定は無利息預け金の平均残高(平成27年9月期0百万円、平成28年9月期0百万円)を控除して表示しております。
2. ( )内は国内業務部門と国際業務部門の間の資金貸借の平均残高及び利息(内書き)であります。
3. 国際業務部門の国内店外貨建取引の平均残高は、日次カレント方式(毎日のTT仲値を適用する方式)により算出しております。

[3] 合 計 (単位：百万円)

種 類	平成27年9月期			平成28年9月期		
	平均残高	利 息	利回り	平均残高	利 息	利回り
資金運用勘定	1,999,765	15,073	1.50%	2,021,850	14,711	1.45%
うち貸出金	1,319,087	11,165	1.68	1,345,531	10,858	1.60
うち商品有価証券	25	0	0.30	29	0	0.24
うち有価証券	526,262	3,792	1.43	578,947	3,779	1.30
うちコールローン	69,884	40	0.11	22,733	13	0.11
うち買入手形	-	-	-	-	-	-
うち債券貸借取引支払保証金	-	-	-	-	-	-
うち預け金	83,779	45	0.10	73,990	37	0.09
資金調達勘定	1,938,975	411	0.04	2,012,386	346	0.03
うち預金	1,848,232	351	0.03	1,876,716	288	0.03
うち譲渡性預金	700	0	0.25	700	0	0.14
うちコールマネー	-	-	-	874	△0	△0.01
うち売渡手形	-	-	-	-	-	-
うち債券貸借取引受入担保金	-	-	-	-	-	-
うちコマースペーパー	-	-	-	-	-	-
うち借入金	89,436	44	0.10	133,140	36	0.05

- (注) 1. 資金運用勘定は無利息預け金の平均残高(平成27年9月期6,455百万円、平成28年9月期66,002百万円)を控除して表示しております。
2. 国内業務部門と国際業務部門の間の資金貸借の平均残高及び利息は、相殺して記載しております。

## 受取利息・支払利息の分析

[1] 国内業務部門 (単位：百万円)

種 類	平成27年9月期			平成28年9月期		
	残高による増減	利率による増減	純増減	残高による増減	利率による増減	純増減
受取利息	898	△1,263	△364	137	△204	△67
うち貸出金	207	△547	△340	218	△532	△314
うち商品有価証券	0	△0	△0	0	△0	△0
うち有価証券	142	△191	△49	386	△83	302
うちコールローン	0	△0	0	△26	△11	△38
うち買入手形	-	-	-	-	-	-
うち債券貸借取引支払保証金	-	-	-	-	-	-
うち預け金	171	△135	35	△4	△3	△8
支払利息	21	△0	21	14	△81	△67
うち預金	7	△10	△2	3	△69	△65
うち譲渡性預金	0	0	0	-	△0	△0
うちコールマネー	-	-	-	△0	-	△0
うち売渡手形	-	-	-	-	-	-
うち債券貸借取引受入担保金	-	-	-	-	-	-
うちコマースペーパー	-	-	-	-	-	-
うち借入金	27	-	27	19	△28	△8

- (注) 残高及び利率の増減要因が重なる部分については、利率による増減に含めております。

# 諸比率

## 利鞘

[2] 国際業務部門 (単位: 百万円)

種 類	平成27年9月期			平成28年9月期		
	残高による増減	利率による増減	純増減	残高による増減	利率による増減	純増減
受取利息	△43	△161	△204	△27	△269	△296
うち貸出金	5	4	9	2	5	7
うち商品有価証券	—	—	—	—	—	—
うち有価証券	△66	△147	△214	△43	△271	△315
うちコールローン	0	0	0	1	10	11
うち買入手形	—	—	—	—	—	—
うち債券貸借取引支払担保金	—	—	—	—	—	—
うち預け金	—	—	—	△0	△0	△0
支払利息	△1	0	△0	△0	0	△0
うち預金	0	1	2	1	0	2
うち譲渡性預金	—	—	—	—	—	—
うちコールマネー	—	—	—	—	—	—
うち売渡手形	—	—	—	—	—	—
うち債券貸借取引受入保証金	—	—	—	—	—	—
うちコマンスchalペーパー	—	—	—	—	—	—
うち借入金	—	—	—	—	—	—

(注) 残高及び利率の増減要因が重なる部分については、利率による増減に含めております。

[3] 合 計 (単位: 百万円)

種 類	平成27年9月期			平成28年9月期		
	残高による増減	利率による増減	純増減	残高による増減	利率による増減	純増減
受取利息	987	△1,554	△566	166	△527	△361
うち貸出金	220	△550	△330	222	△529	△306
うち商品有価証券	0	△0	△0	0	△0	△0
うち有価証券	105	△369	△263	377	△390	△12
うちコールローン	0	0	0	△26	△1	△27
うち買入手形	—	—	—	—	—	—
うち債券貸借取引支払担保金	—	—	—	—	—	—
うち預け金	171	△135	35	△4	△3	△8
支払利息	22	1	23	14	△79	△64
うち預金	8	△8	△0	4	△67	△63
うち譲渡性預金	0	0	0	—	△0	△0
うちコールマネー	—	—	—	—	△0	△0
うち売渡手形	—	—	—	—	—	—
うち債券貸借取引受入保証金	—	—	—	—	—	—
うちコマンスchalペーパー	—	—	—	—	—	—
うち借入金	27	—	27	19	△28	△8

(注) 残高及び利率の増減要因が重なる部分については、利率による増減に含めております。

## 役務取引の状況

(単位: 百万円)

種 類	平成27年9月期			平成28年9月期		
	国内業務部門	国際業務部門	合 計	国内業務部門	国際業務部門	合 計
役務取引等収益	2,890	23	2,914	2,933	21	2,955
うち預金・貸出業務	1,455	—	1,455	1,507	—	1,507
うち為替業務	643	23	666	640	21	662
うち証券関連業務	483	—	483	480	—	480
うち代理業務	285	—	285	284	—	284
うち保護預り・貸金庫業務	19	—	19	18	—	18
うち保証業務	3	—	3	3	—	3
役務取引等費用	2,040	11	2,051	2,096	11	2,107
うち為替業務	145	11	156	144	11	156

## 営業経費の内訳

(単位: 百万円)

科 目	平成27年9月期	平成28年9月期
給料・手当	5,898	5,931
退職給付費用	385	457
福利厚生費	75	78
減価償却費	579	670
土地建物機械賃借料	488	504
宮繕費	18	16
消耗品費	126	116
給水光熱費	128	109
旅費	16	16
通信費	406	399
広告宣伝費	263	244
租税公課	758	900
その他	1,477	1,482
合 計	10,623	10,927

## その他業務利益の内訳

(単位: 百万円)

科 目	平成27年9月期	平成28年9月期
国内業務部門		
商品有価証券売買利益	0	0
国債等債券関係利益	30	1,144
その他損益	0	418
小 計	30	1,563
国際業務部門		
外国為替売買利益	46	55
商品有価証券売買利益	—	—
国債等債券関係利益	—	—
その他損益	—	—
小 計	46	55
合 計	76	1,619

(単位: %)

	平成27年9月期			平成28年9月期		
	国内業務部門	国際業務部門	合 計	国内業務部門	国際業務部門	合 計
資金運用利回	1.41	1.76	1.50	1.39	1.26	1.45
資金調達原価	1.12	0.27	1.13	1.10	0.27	1.10
総資金利鞘	0.29	1.49	0.37	0.29	0.99	0.35

## 利益率

(単位: %)

種 類	平成27年9月期	平成28年9月期
総資産経常利益率	0.44	0.44
自己資本経常利益率	6.71	6.57
総資産中間純利益率	0.37	0.37
自己資本中間純利益率	5.68	5.52

(注) 1. 総資産経常(中間純)利益率 =  $\frac{\text{経常(中間純)利益}}{\text{総資産(除く支払承諾見返)平均残高}} \times \frac{365}{183} \times 100$   
 2. 自己資本経常(中間純)利益率 =  $\frac{\text{経常(中間純)利益}}{(\text{期首純資産合計} + \text{期末純資産合計}) \div 2} \times \frac{365}{183} \times 100$

## 預貸率(貸出金の預金に対する比率)及び預証率(有価証券の預金に対する比率)

(単位: %)

	平成27年9月期			平成28年9月期		
	国内業務部門	国際業務部門	合 計	国内業務部門	国際業務部門	合 計
預貸率						
期末	71.91	43.14	71.80	71.83	36.26	71.65
期中平均	71.44	49.85	71.37	71.84	40.32	71.69
預証率						
期末	24.19	1,324.52	28.98	26.75	1,082.65	31.83
期中平均	22.79	1,755.63	28.47	25.55	1,177.16	30.84

(注) 預金には譲渡性預金を含んでおります。

# 有価証券等の時価情報・デリバティブ取引

## (有価証券関係)

中間貸借対照表の「国債」「地方債」「社債」「株式」「その他の証券」のほか「商品有価証券」が含まれております。

### 1. 売買目的有価証券

(単位: 百万円)

売買目的有価証券	平成27年9月30日		平成28年9月30日	
	当中間会計期間の損益に含まれた評価差額	当中間会計期間の損益に含まれた評価差額	当中間会計期間の損益に含まれた評価差額	当中間会計期間の損益に含まれた評価差額
	0	0	0	0

### 2. 満期保有目的の債券

(単位: 百万円)

	種 類	平成27年9月30日			平成28年9月30日		
		中間貸借対照表計上額	時 価	差 額	中間貸借対照表計上額	時 価	差 額
時価が中間貸借対照表計上額を超えるもの	国債	4,999	5,153	154	4,999	5,076	76
	地方債	16,108	16,681	573	12,617	13,013	395
	社債	—	—	—	—	—	—
	その他	4,361	4,768	406	4,369	4,686	317
	小 計	25,469	26,603	1,133	21,986	22,776	789
時価が中間貸借対照表計上額を超えないもの	国債	—	—	—	—	—	—
	地方債	—	—	—	—	—	—
	社債	—	—	—	—	—	—
	その他	—	—	—	—	—	—
	小 計	—	—	—	—	—	—
合 計	25,469	26,603	1,133	21,986	22,776	789	

### 3. 子会社・子法人等株式及び関連法人等株式

子会社・子法人等株式(前中間貸借対照表計上額1,033百万円、当中間貸借対照表計上額1,013百万円)は、市場価格がなく時価を判断することが極めて困難と認められることから記載しておりません。

# その他

## 大株主一覧

### 4. その他有価証券

(単位：百万円)

	種 類	平成27年9月30日			平成28年9月30日		
		中間貸借対照表計上額	取得原価	差 額	中間貸借対照表計上額	取得原価	差 額
中間貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	株 式	15,337	7,564	7,772	11,541	6,193	5,348
	債 券	343,036	328,351	14,685	387,749	365,579	22,169
	国 債	164,323	158,351	5,971	143,938	136,251	7,686
	地方債	67,464	62,605	4,859	120,363	111,690	8,673
	社 債	111,248	107,394	3,853	123,446	117,636	5,809
	その他	74,756	73,100	1,656	79,392	76,788	2,604
	小 計	433,130	409,015	24,114	478,683	448,561	30,121
中間貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	株 式	928	1,058	△129	1,699	1,901	△201
	債 券	26,063	26,300	△236	24,430	24,945	△515
	国 債	—	—	—	9,430	9,673	△243
	地方債	16,143	16,307	△163	400	400	—
	社 債	9,920	9,993	△73	14,599	14,871	△271
	その他	52,661	53,756	△1,095	71,536	72,141	△605
	小 計	79,653	81,115	△1,461	97,666	98,988	△1,322
合 計		512,784	490,131	22,652	576,349	547,549	28,799

(注) 時価を把握することが極めて困難と認められるその他有価証券 (単位：百万円)

	平成27年9月30日		平成28年9月30日	
	中間貸借対照表計上額		中間貸借対照表計上額	
株 式	1,098		998	
その他	134		904	
合 計	1,233		1,902	

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

### 5. 前中間会計期間及び当中間会計期間中に売却したその他有価証券

(単位：百万円)

	平成27年9月30日			平成28年9月30日		
	売却額	売却益の合計額	売却損の合計額	売却額	売却益の合計額	売却損の合計額
株 式	171	86	—	8	7	—
債 券	8,475	30	—	12,608	1,146	2
国 債	5,033	27	—	2,583	47	—
地方債	2,801	1	—	9,256	1,098	—
社 債	640	1	—	768	0	2
その他	—	—	—	—	—	—
合 計	8,647	117	—	12,616	1,154	2

### 6. 減損処理を行った有価証券

有価証券 (売買目的有価証券を除く。) で時価のあるもののうち、当該有価証券の時価が取得原価に比べて著しく下落しており、時価が取得原価まで回復する見込みがあると認められないものについては、当該時価をもって中間貸借対照表計上額とするとともに、評価差額を当中間会計期間の損失として処理 (以下「減損処理」という。) しております。

前中間会計期間における減損処理額は、54百万円 (時価のある株式50百万円、時価を把握することが極めて困難と認められる株式4百万円) であります。

当中間会計期間における減損処理額は、一百万円 (時価のある株式一百万円、時価を把握することが極めて困難と認められる株式一百万円) であります。

#### (金銭の信託関係)

該当ありません。

#### (その他有価証券評価差額金)

中間貸借対照表に計上されているその他有価証券評価差額金の内訳は、次のとおりであります。

(単位：百万円)

	平成27年9月30日	平成28年9月30日
評価差額	22,652	28,799
その他有価証券	22,652	28,799
その他の金銭の信託	—	—
(△) 繰延税金負債	△6,140	△8,257
その他有価証券評価差額金	16,511	20,542

#### (デリバティブ取引関係)

前中間会計期間末 (平成27年9月30日現在)、当中間会計期間末 (平成28年9月30日現在) とともに、デリバティブ取引はありませんが、重要性が乏しいので記載しておりません。

(平成28年9月30日現在)

氏名又は名称	住 所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合 (%)
株式会社整理回収機構	東京都千代田区丸の内三丁目4番2号	175,000	32.00
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	東京都中央区晴海一丁目8番11号	25,451	4.65
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口4)	東京都中央区晴海一丁目8番11号	14,763	2.69
東和銀行従業員持株会	群馬県前橋市本町二丁目12番6号	11,063	2.02
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口9)	東京都中央区晴海一丁目8番11号	10,635	1.94
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	東京都港区浜松町二丁目11番3号	8,448	1.54
遠藤 四郎	東京都稲城市	7,050	1.28
CBNY DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO (常任代理人 シティバンク銀行株式会社)	388 GREENWICH STREET, NY, NY 10013, USA (東京都新宿区新宿六丁目27番30号)	5,495	1.00
株式会社ユニマット リタイアメント・コミュニティ	東京都港区南青山二丁目12番14号ユニマット青山ビル	5,370	0.98
CBNY-GOVERNMENT OF NORWAY (常任代理人 シティバンク銀行株式会社)	388 GREENWICH STREET, NEW YORK, NY 10013 USA (東京都新宿区新宿六丁目27番30号)	4,558	0.83
計	—	267,834	48.98

(注) 当中間会計期間末現在における、日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)、日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口4)、日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口9) 及び日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口) の信託業務の株式数については、当行として把握しておりません。

なお、所有株式に係る議決権の個数の多い順上位10名は、以下のとおりであります。

(平成28年9月30日現在)

氏名又は名称	住 所	所有議決権数 (個)	総株主の議決権に対する所有議決権数の割合 (%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	東京都中央区晴海一丁目8番11号	25,451	6.93
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口4)	東京都中央区晴海一丁目8番11号	14,763	4.02
東和銀行従業員持株会	群馬県前橋市本町二丁目12番6号	11,063	3.01
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口9)	東京都中央区晴海一丁目8番11号	10,635	2.89
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	東京都港区浜松町二丁目11番3号	8,448	2.30
遠藤 四郎	東京都稲城市	7,050	1.92
CBNY DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO (常任代理人 シティバンク銀行株式会社)	388 GREENWICH STREET, NY, NY 10013, USA (東京都新宿区新宿六丁目27番30号)	5,495	1.49
株式会社ユニマット リタイアメント・コミュニティ	東京都港区南青山二丁目12番14号ユニマット青山ビル	5,370	1.46
CBNY-GOVERNMENT OF NORWAY (常任代理人 シティバンク銀行株式会社)	388 GREENWICH STREET, NEW YORK, NY 10013 USA (東京都新宿区新宿六丁目27番30号)	4,558	1.24
関東建設工業株式会社	群馬県太田市別所町332	4,113	1.12
計	—	96,946	26.42